

小学校外国語活動の充実に向けて

県北教育事務所

1 小学校外国語活動に関する課題を考察

小学校外国語活動の移行期間1年目が終わろうとしています。外国語活動の指導を行うに当たり、重要なポイントを質問形式で挙げてみました。よりよい回答を考えてみていただきたいと思います。

(1) 質問事項

- 問1 ティーム・ティーチング時のALTと学級担任の役割とは？(T1、T2等)
- 問2 学級担任が英語を話すことに抵抗がある場合に、T・TにおいてALTとやり取りをする際に使えるテクニックとは？
- 問3 T・Tをする際のALTとの打合せは、どのように行うのがよいか？
- 問4 ALTと上手にコミュニケーションを図っていくにはどうすればよいか？
- 問5 外国語活動において、日本語は使ってもよいか？また、その理由は？
学級担任の場合： ALTの場合： 子どもの場合：
- 問6 学級担任のみで授業を行う場合、どのような教材を用い、工夫をすることができるか？
- 問7 クラスルームイングリッシュ(教室英語)を使えるようにするにはどうすればよいか？
- 問8 小学校外国語活動において、5・6年担任以外の教員はどのようにかかわっていけばよいか？
- 問9 小中連携を図るにはどうすればよいか？

(2) 回答の重要なポイント

答1 学級担任がT1であり、ALTがT2であるということをしっかり認識することが大事です。

T1とは、必ずしもたくさん英語を話したり、説明をしたりする人ではありません。あくまでも授業をコントロールする役割を果たす人です。普段から子どもたちと接し、よく理解している学級担任が授業の進行を務めることで、子どもたちの安心感や開放感も大きくなります。もちろん、ALTにはたくさん英語を話してもらい、言葉のシャワーを浴びせてもらわなければなりません。そのためにも、学級担任は、ALTが英語をたくさん話し、子どもたち一人一人とコミュニケーションをとる時間を確保する手助けをしなければなりません。

答2 ALTが話した文の最後の言葉やキーワードを繰り返すことが有効な手段です。学級担任が

ALTの説明をすべて聞き取れなくてもかまいません。最後の言葉のみを繰り返すだけでよいのです。そうすることによって、子どもたちは「先生が英語を話してるよ。」ととらえ、英語を使うモデルとなります。また、子どもは繰り返し聞くことができるので、分かりやすくなるというメリットもあります。

答3 もちろん、打合せの時間を設けて、直接話し合うのが最もよい方法です。学校(市町村)

として、そのための時間を計画的に設定するという方法もあります。しかし、それが不可能な場合は、FAXやメールでのやり取りをする方法があります。どちらの場合でも、一定のフォームを使い、授業の流れや役割分担が明確に分かるようにしておくことが大事です。

答4 英語がうまく話せなくとも、「とにかく伝えたい」という姿勢を見せることです。そうすることによって、ALTも学級担任を身近に感じ、自然に打ち解けて、うまくコミュニケーションが図れるようになってきます。忙しい中でも、コミュニケーションをとろうとする時間を作ることが大切です。

答5 学級担任はクラスルームイングリッシュを多用することが望ましいですが、内容によっては日本語で進行する場面があってもかまいません。その場合はALTは学級担任の日本語を理解して、英語で対応するということが必要です。また、子どもたちが分からないようだからといって、ALTが言ったことを学級担任が日本語で説明してしまわないことです。そのようにしてしまうと、子どもたちはALTの言うことをしっかり聞かなくなってしまいます。

日本語が話せるALTは、日本語を使ってしまおうとありますが、これも好ましくはありません。ALTには、あくまでも英語で分かりやすく説明してもらうこと、説明が難しい場合は具体的にやって見せながら理解させることが大事です。そういう場合は、打合せ等でよく話をし、日本語を使うのは学級担任の役割だということを認識してもらう必要があります。

子どもに対しては、自分が言いたいことが英語で分からないところは、日本語を使ってもいいというようにしておくと、安心して活動に取り組めるようになります。

答6 ポイントは、CDやデジタル教材等を十分利用して、歌やチャンツ、そして英語ノート等のアクティビティ（活動）を行っていくということです。そして、一つの教材・教具も工夫次第で子どもを飽きさせることなく、何度でも使うことが可能です。そうすることによって、子どもたちは表現に慣れ親しむことができます。例えば、「セブンスステップス」の歌においては、歌う速さを変えたり、逆から歌ったり、数字を10まで（又は12まで）に増やしたり、ジェスチャーを付けて歌ったりすると、難易度が増して、子供は飽きずに繰り返し学習できます。

答7 まずは、クラスルームイングリッシュを毎日1つでも2つでも覚えて、それを実際に授業で使ってみて慣れることです。インプットしたものは、アウトプットすることによって確実に使えるものになっていきます。中核教員研修では、クラスルームイングリッシュの表現集を全ての学校に配付しました。また、文部科学省「小学校外国語活動研修ガイドブック」にも、英語の発音やクラスルームイングリッシュ等について研修できる内容が準備されています。これらの研修教材を、担当者ばかりでなく、学校全体の研修で活用していくことが大切です。

答8 ピクチャーカードや校内の掲示物等の教材・教具の作成は、どの学年の先生でも手伝うことができる内容です。教材づくりを一緒にしていく過程で、外国語活動の内容や指導法について、具体的に研修できることにもなります。

外国語活動は、いつでも、どの先生でも担当できるようにしておかなければなりません。その意味で、学校全体で研修を計画的に行っていくことが必要です。繰り返しになりますが、文部科学省「小学校外国語活動研修ガイドブック」や中核教員研修で使った研修教材を、各学校の校内研修において有効に活用してください。

答9 お互いに授業を目で見て肌で感じて、それから話し合うことが必要です。そのために、同じ中学校区を単位とした小学校と中学校で、定期的に交流の場、話し合いの場を持つことが大切です。中学校では、小学校での学習内容を把握した上で指導計画や指導方法を開発していく必要がありますし、複数の小学校が1つの中学校区にある場合は、小学校間でのカリキュラムの調整もある程度必要です。また、今後、同じ学区の中で、小学校5年生から中学校3年生までの外国語教育をどのように展開していくかという見通しを基に、各学校での教育課程や指導方法を工夫改善していくことが大切になっていきます。

2 ティーム・ティーチングの具体的な実践について

ここでは、実際にT・Tをどう実践していけばよいかということについて、お話ししていきたいと思います。

まずは、T・T時の二人の立つ位置です。**子どもたちから向かって正面の中央に二人の姿がある**べきです。もちろん、机間指導をしたり、移動したりすることはありますが、基本的には正面中央に立つことが望ましい姿となります。学級担任が教室わき、もしくは後ろにいる姿が時々見られますが、それは子どもにとってもいいモデルにはなりません。**学級担任も積極的に授業にかかわっている姿を見せる**ことが大切です。

まず手始めに、**学級担任は、活動の始まりと終わりの指示を出すようにする**のが良いでしょう。“Let's start the first activity.” “It's time to finish.” “Now, let's do the next activity.” などのように、簡単な合図をALTに送って進めていくだけでいいのです。もし、とっさに言葉が出てこないときには、日本語でもかまいません。とにかく、**学級担任が授業を運営している姿を見せる**ことです。

実際に活動する場面、例えば歌やチャンツを行う際には、**ALTと一緒にデモンストレーション**をしたり、歌ったりすればよいでしょう。また、**学級担任は子どもたちと一緒に活動**することも大切です。そうする中で、子どもたちの様子を把握しながら、**理解が難しそうな部分はALTに分かりやすく言い換えてもらう**必要があります。ジェスチャーや絵などを使って説明してもらうのもよいでしょう。最初は日本語でもよいので、**タイミングを逃さずALTに指示を出す**ことです。

次に、**学級担任は子どもの代弁者として、ALTにいろいろな質問を投げかけていく**ことも必要です。子どもが分かりにくそうな部分、授業のポイントとなる部分、疑問に思いついそうな部分などについて、ALTに質問して、「**あーなるほどね。～は～なんだ**」というように、**子どもの気付きを促すような発話をしていく**ことを心がけていきましょう。

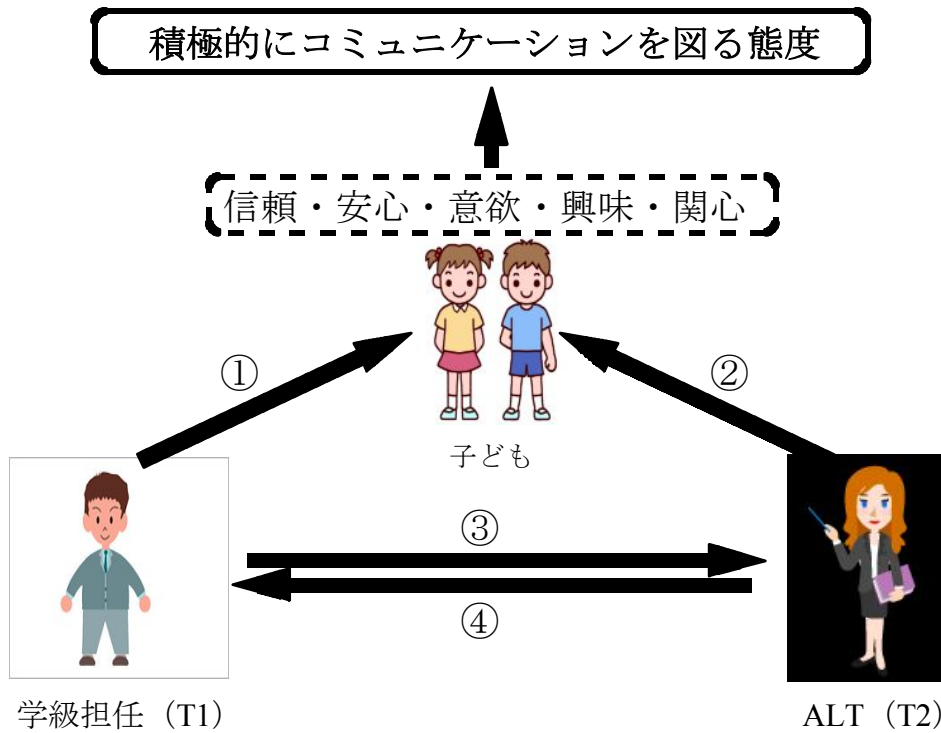
そして最後に、学級担任は**子どもたちを誉める**ことが大切です。ALTの先生と共に誉めること、それが子どもたちのやる気を引き出します。その際の**役割分担も明確**にしておきましょう。ALTは英語（発音・アクセント・表現など）的な部分、学級担任は態度・姿勢などと分担しておくといよいでしょう。

以上のように、学級担任は、**ティーム・ティーチングを行う教師**であり、**自ら英語を使おうとするモデル**であり、**子どもの代弁者**である、という**3つの役割**を担っているのだということをしっかりと心に留めて授業を行っていく必要があります。

次年度は、移行期間の2年目として、さらに外国語活動が充実したものになることを期待しています。



ALT を活用した効果的な授業のために



- ① 授業を進行する。(自ら英語を使う姿勢)
- ② コミュニケーションする場を与える。(言葉・異文化)
- ③ ALT に活動を指示する。
- ④ 学級担任の指導を援助する。

	学級担任 (T1)	ALT (T2)
よさ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもを理解している。 ○ 指導法を理解している。 ○ 授業を進行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言語を熟知している。 ○ 異文化を理解している。 ○ 活動をサポートする。
役割	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの疑問や気付き等を把握して伝える。 ○ 英語を使うモデルとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言語について指導する。 ○ 言葉に多く触れさせる機会を与える。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ ALT の説明を日本語に訳さない。 ○ 疑問点・重要点は ALT に質問して子どもに気付かせる。 ○ 日本語が多くなり過ぎない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもが分かるように表現を工夫する。 ○ 学級担任に進行は任せる。 (活動の初めと終わり等) ○ 日本語は話さない。